

# 2013年度日本建築学会関東支部シンポジウム

## 使い続けるためのデザイン

### －Living Heritageの保存と再生、その設計プロセスを検証する

2012年10月、東京駅は戦災で失われた部位を復原し、67年ぶりに竣工当時の姿を取り戻した。近代建築の多くが解体の危機に瀕している現在、既存部の保存と復原による再生デザインを合わせて成功させた稀有な事例といえる。その設計プロセスは、現代における使い続ける文化財（Living Heritage）のさまざまな課題を凝集させて、この分野の今後を展望するための貴重なドキュメントとなっている。また、「文化財修理技術者」ではない「建築家」が、我が国の文化財の保存と再生にどのように関わっていくべきか、この問題を考える契機を与えてくれるものでもある。なにがLiving Heritageとしての歴史遺産の保存・再生を可能にするのか。建築や都市に歴史的多様性を回復していくためには、いまなにに取り組めばよいのか。東京駅をはじめとして近年の保存・再生事例についてその設計プロセスを検証し、我が国の「建築家」と文化財との関わりも含め、「使い続けるためのデザイン」をより一般的なかたちにしていくための方途を探っていきたい。

主催 日本建築学会関東支部

日時 6月12日（水）17：00～20：00

会場 建築会館会議室（東京都港区芝5-26-20）

#### プログラム

1. 主旨説明・司会……………田所辰之助(日本大学)
2. 各論発表
  - 1) 重要文化財を使い続けることの意義と課題－東京駅の設計プロセスを振り返って……………田原幸夫（ジェイアール東日本建築設計事務所）
  - 2) 保存・再生デザインの現在－建築家として歴史遺産とどう対峙するか……………藤木隆男（藤木隆男建築研究所）
  - 3) 建築保存・活用における建築家の役割……………木村 勉（長岡造形大学）
3. パネル・ディスカッション－「使い続けるためのデザイン」はいかにして可能となるか

定員 60名（申込先着順）

参加費 会員500円 会員外1,000円

申込み [こちら](#)のお申し込みフォームからお申し込みください